

# 歴史探訪

## クラブ! 其の210

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720  
(博物館) FAX 22-2028

### ぼっくり地蔵

ぼっくり地蔵というお地蔵様が田原町にある二ツ坂霊園にいらっしゃるのをご存じでしょうか。お地蔵様は霊園の一番奥の御堂の中に座っており、大きさは60cmほどになります。今回はこの「ぼっくり地蔵」の言い伝えをご紹介します。

このお地蔵様は、江戸時代初めごろ、二ツ坂に屋敷を構えていた本田伝兵衛が、修行のために行脚していたお坊さんに彫ってもらい屋敷の近

くに祭ったのが始まりと言われています。

元々は現在のように御堂が整備されておらず、藪の中に鎮座していたようです。その頃は近くの漁師たちが信仰しており、不漁が続くとお地蔵様の首を手拭で締め付け、「大漁を授けてくださったのなら、首を緩めてさしあげます」と願いをかけていたそうです。しばらくして大漁になると、漁師たちはお地蔵様の元へ行き、感謝を伝え首の手拭を緩め、採った魚をお供えしたと言われています。お供えされた魚は近くに住んでいる貧しい人がお地蔵様に感謝をしながらお下がりをいただいたそうで、こういった形で漁師以外にも信仰が広がっていったと考えられます。



▲ぼっくり地蔵が納められている御堂

そもそも「地蔵」というのは正しくは地蔵菩薩の事を指します。地蔵菩薩は仏教信仰の中で現世・天国・地獄などのあらゆる生き物を救済し、正しい方向へ導く役割を持った菩薩です。

また、死んだ子どもがああの世で行きつき、苦しむと言われている、冥途の三途の河原(賽の河原)で、子どもたちを救ってくれることから、子どもたちの救う仏様というイメージが中世から広がりました。

この他、神仏習合により道祖神(※)と交わったため、道と道が別れる場所に置かれ、悪いものが村に入らないよう境界としての役割と、村の外へ行く人の安全を守る神様のような役割を担うようにもなりました。

そんな地蔵菩薩、本来は漁師に信仰される仏様ではありません。では、なぜ「ぼっくり地蔵」を漁師たちが信仰していたかというと、恐らく、道祖神の要素が強かったからだと思います。元々は前に紹介したように村の外へ行く人の安全を願う、つまり海に行く事への安全を願うものから、漁師たちがそこに豊漁の願いも付け加えた

のではないのでしょうか。その結果、漁師たちが豊漁を願う珍しいお地蔵様になったと思われれます。

そして、この「ぼっくり地蔵」、現在は病などせず長生きし「ぼっくり」とあの世に行けるよう願いを叶えてくれるお地蔵様として信仰されており、これが「ぼっくり地蔵」の名前の由来と考えられています。これはいつ頃からか分かりませんが、道祖神の信仰から地蔵菩薩の信仰に変わり、「無病息災」「長寿延命」という地蔵菩薩本来の信仰に戻ったとも言えます。

現在の御堂は平成25年に田原区によって整備されました。近くを通りかかったら、一度お参りしてみたいかがでしょうか。

(学芸員 鈴木まりな)

※道祖神とは、道端にいる石造の神様で、男神と女神が彫られているのが有名。村の守り神として民間信仰されています。

なお、本稿の執筆にあたり、田原区文化誌編集委員会編集の「蔵王―田原区文化誌3」を参考にさせていただきました。